

38. 高知県沖ノ島集落における自然環境との共生手法に関する調査研究
 ～住民の生業の変遷と干棚の形成過程について～

0810920064 伊達貴史
 指導教員 市川尚紀 講師

沖ノ島 弘瀬集落 母島集落 生業 干棚 形成過程

1. はじめに

日本には、6847 の離島が存在し、その閉鎖的な環境ゆえにそれぞれの地域特有の歴史・文化・風土によって形成された集落が数多く存在している。そして数多く残る集落の中で、高知県沖ノ島は、古くから他の集落にはない独特の生活習慣によって生み出された「干棚」という建築的特徴がある。

干棚は島民の生活と深く関わっており、限られた空間を有効に活用する先人による生活の知恵であり、島独自の風物詩で、野菜や魚などを干し、夏場は食事をしたり涼んだり様々な形で活用される。そのような深い関わりがあるため、住民の生業や島の移り変わりにより、干棚の形成過程に変化が見られる。

本研究では、①沖ノ島の住民の生業の変遷②使用方法、構成材料の変遷から分かる干棚の形成過程について考察することが目的である。

表 1 調査概要

| | | |
|-----|---|------------------------------------|
| 対象地 | 高知県宿毛市沖ノ島（母島、弘瀬集落） | |
| 方法 | 文献調査 | ヒヤリング調査 (2011/11/10～2011/11/14) |
| 内容 | ①住民の生業の変遷 ②干棚の形成過程 ・使用方法の変遷 ・構成材料の変遷 | |

※ヒヤリング調査で得た情報は、昭和元年（1926年）～平成23年（2011年）までである。



図 1 沖ノ島の位置



写真 1 干棚



写真 2 干棚

2. 調査地概要

沖ノ島は、弘瀬集落と母島集落を中心に大小 5 つの集落により形成され、平地が少なく、至る所に断崖や急斜地が見られる。今回は、高知県沖ノ島の弘瀬集落と母島集落を調査対象地とする。

2.1 地理的特性

沖ノ島は、四国の最南端（東経 132° 32'、北緯 32° 43'）の高知県宿毛市の沖合にある。宿毛市片島港より海上約 25 km 地点に位置し、石垣と石段に彩られた離れ島である。島の地質は、多くが花崗岩より形成されており、弘瀬集落の東部及び北部のみにわずかに水成岩が露出するのみである。

2.2 歴史

沖ノ島に人が住み始めた時期は明確ではないが、元久 2 年（1205 年）に母島集落を開拓し始まったとされている。藩制時代には、島の中で土佐藩と伊予宇和島藩に分かれ国境争いが起きた。国境争いは万治 2 年（1659 年）解決したが、明治時代に入って、互いの対立感情はますます激化し、同じ集落以外の人との婚姻は禁止された。昭和時代には、離島であることから電力供給が低く深刻な問題であった。それにより、昭和 30 年頃から島外への移住者が増加する。平成時代に入ると、沖ノ島は、少子高齢化問題が激化する。沖ノ島の住民は、最盛期に約 2000 人を越えていたが、平成 18 年（2006 年）には 1/10 程の 283 人にまで減少していった。そのうち高齢者の割合が約半数を越えており、現在は過疎化が大きな問題となっている。

3. 住民の生業の変遷

沖ノ島の人々は、主な生業を漁業、農業、林業としている。もともと漁業を生業としていたが、国境争いを期に藩制時代は、母島集落は漁業、弘瀬集落は半農半漁を生業とした。明治時代に入ると、両集落ともサンゴ漁が行われた。昭和時代は製炭業が行われた。製炭業は、現金収入を得るために、電力供給の低い問題を補うために行われた。また、島外への移住者が増加し、漁業、農業、林業が衰退した。平成時代には、多くの住民が島外に働きに出て行き、漁業、農業については、自家消費用として収穫する程度である。

4. 干棚の形成過程

干棚は、基本的に干し場、涼み場として使用され、最初の構成材料は竹であった。藩制時代は、弘瀬集落で大飢饉の状態になり、貯蓄できる干物を作るために干し場として使用された。構成材料は、地震が起きたことで竹から木に変わったが、作物の干しの良さを考え、支柱だけ木になった。明治時代に入り、干棚は、民家に吹き付ける潮風や季節風を防ぐ要素として使用された。また、敷地が狭く平地が少ないため作業場としても使用された。構成材料は、支柱も竹から木に変わった。しかし、干し場として使用されることが多くなり、干しの良さを考え、木から竹に戻った。

昭和時代は、涼み場、夕食、仮眠、農作業の場所として使用された。構成材料は、昭和 30 年頃には電化製品が普及したことで、竹から塩化ビニール製に変わった。平成時代に入り、干棚の使用方法は、洗濯物や食器を乾かす場所として使用されている。構成材料は、支柱を塩化ビニールから木柱で構成され、その後、すべてコンクリートで構成される干棚も出てきた。現在、竹で構成されたものも残っている。しかし、多くは、鉄パイプで組まれた支柱の上に塩化ビニール被せて構成されるものである。

5. まとめ

沖ノ島は、藩制時代から昭和中期まで、母島集落は漁業、弘瀬集落は半農半漁を生業としてきたことが分かった。平成時代には、過疎化により漁業、農業が衰退していき、現在では、自家消費用として収穫する程度であることが分かった。

干棚の使用方法は、干し場・涼み場だけでなく防風対策としても使用された。また、農業が生業の時は作業場として、漁業が生業の時は干し場となるように生業の変遷によって変わってきたことが分かった。また、干棚の構成材料は、竹や木などの自然材料から塩化ビニールやコンクリート製の材料に変わったことが分かった。しかし、生活の糧である乾物を作るには、乾きやすい点から竹が最適であり、現在でも用いられている。

参考文献

- 1) 郷土誌編集委員会：わが故郷「土佐・沖の島」、弘瀬小学校、pp.30-217, 1982.3
- 2) 山本等, 西澤紀夫：土佐沖ノ島 昔といま, 宿毛市立母島中学校, pp.1-84, 1957.10
- 3) 橋田庫欣：宿毛市 集落と歴史と文化財, 宿毛市文化財愛護会, pp.98-335, 1996

表 2 住民の生業の変遷と干棚の形成過程

| 西暦 (年号) | 歴史 | 生業 | | 使用方法 | 構成材料 |
|------------------|-------------------|------------|-------------|---------------|--------|
| | | 弘瀬集落 | 母島集落 | | |
| 1205年 (元久2年) | 母島集落を開拓 | | 漁業 | | 竹 |
| 1453年 (享徳2年) | 弘瀬集落を開拓 | 漁業 | | | |
| 1574年 (天正2年) | 国境争い | | | | |
| 1644年 (正保元年) | 木材伐採を禁止 | | | | |
| 1645年 (正保2年) | 領海での漁を禁止 → 農業始まる | 農業 | 漁業 | | |
| 1650年 (慶安3年) | 芦の田の争い → 半農半漁 | 半農半漁 | | 干し場 | |
| 1658年 (万治元年) | 山中の争い | | | | |
| 1685年 (貞享2年) | 絹糸の輸入が制限 | 副業で養蚕業 | | | |
| 1693年 (元禄6年) | 養蚕を奨励 | 最盛期 | | | |
| 1707年 (宝永4年) | 地震 | 漁業が衰退 | | | 木 |
| 1731年 (享保16年) | 弘瀬で大飢饉 → 漁業 | 漁業 | | | |
| 1751年 (宝暦元年) | 田畑を開墾する → 半農半漁 | 半農半漁 | 農業始まる | 干し場 → 支柱(木) | |
| 1842年 (天保13年) | 鹿垣1230間を築く | 漁業 | | | |
| 1854年 (安政元年) | 地震 → 農業が衰退 | 農業が衰退 | 漁業が衰退 | | |
| 1868年 (明治元年) | 田畑を開墾する | 半農半漁 | 遠洋漁業 | 防風対策 | |
| 1877年 (明治9年) | サンゴ漁始まる | | サンゴ漁 | | |
| 1889年 (明治22年) | | | | 干し場 | |
| 1897年 (明治30年) | 最盛期 → サンゴ漁 | サンゴ漁 | | 作業場 | |
| 1908年 (明治41年) | | | | | |
| 1909年 (明治42年) | 近海で暴風雨 → サンゴ漁が衰退 | | サンゴ漁が衰退 | | |
| 1923年 (大正12年) | サンゴ漁中止 → 半農半漁 | 半農半漁 | 遠洋漁業 | 干し場 | |
| 1927年 (昭和2年) | 水力発電開始 | 副業で製炭業 | | | |
| 1946年 (昭和21年) | 地震 → 農業 | 半農半漁 → 農業 | 半農半漁 → 農作業場 | | |
| 1948年 (昭和23年) | 竹の入手難 → 半農半漁 | | | | 塩化ビニール |
| 1954年 (昭和27年) | 妹背山に入植 | | | | |
| 1956年 (昭和31年) | 「沖ノ島火力発所」竣工 | 一本釣漁、キビナゴ漁 | | | |
| 1960年 (昭和35年) | 電化製品急増 | | | 涼み場、夕食、仮眠 | |
| 1961年 (昭和36年) | | 定置大敷網 | | | |
| 1968年 (昭和43年) | 本土から送電開始 | | | | |
| 1972年 (昭和47年) | 「足摺国立公園」に指定 | ハマチ 中間養殖 | 一本釣り漁 | | |
| 1981年 (昭和56年) | 運搬費や餌料の高騰 → 漁業が衰退 | | 漁業が衰退 | | |
| 2002年 (平成14年) | 電柱の交換 | | 島外に働きに出る | 物干し場 → 支柱(木柱) | |
| 2005年 (平成17年) | | | | | コンクリート |
| 2011年 (平成23年) | | | | | |
| | | 両集落の変遷 → | | 各集落の変遷 → | |